

ギャunkou

⑥

2015 年お年賀号

gyahunkoubou.com

小説家の仕事術

「今日からあなたの役に立つ」

「いつかあなたの役に立つ」

プロに頼む方法

ぎゃふん作品賞

ギャunkou

ぎゃふん⑥試し読み版

まじろ®



まじろ工房

はじめに

昨年（2014年）は、ハローキティ生誕40周年でした。と同時に〈ジブン生誕40周年〉でもあったのです。そんな記念すべき年に、何かドンとやりたいな——そう考え、実行したのが〈小説〉の発行です。

……といっても、一昨年（2013年）のお正月発行の『ぎゃふん』第4号で、すでに〈小説〉の告知をしていたのですから「単なる偶然だろ?」。そんなツッコミをしたあなたはご慧眼^{けいがん}と言えます。

さて、続く第5号でも〈小説〉のお知らせをしています。第4号と第5号を発行する間に、事情が変わりました。第4号の時点では、〈小説〉が書き上がったら自分のサイトにでもアップすればよいか、と漠然と考えていました。しかし、第5号の発行時には、AmazonやiTunes Storeなどで買える〈電子書籍〉としてリリースすることになったのです。現在、オフィシャル・サイト（自分のサイト）も含めて、12の電子書店で販売しています。

ところで、この『ぎゃふん』は、第3号から「ブログの記事をまとめたもの」になっています。すべての文章を書き下ろす時間はない。だから、手っ取り早く本のカタチにするために、苦肉の策としてそうしてきました。

しかしながら、2014年は、〈小説〉の配信作業、それに続くプロモーション活動に力を注いでいたために、ほとんどブログを更新していません。したがって、一冊にまとめるほど記事が集まらない。

2015年は『ぎゃふん』はお休み——そんな選択もありでしょう。

でも、それではなんだか寂しい。

そこで、今回は〈小説〉のリリースにまつわる記事（2014年に書かれていないものも含めて）収録した本にしました。実際に私がやったことですから、近況報告も兼ねているわけです。

パート1では「**小説家の仕事術**」として、自称・小説家の私の〈手帳術〉を紹介します。私は専業作家ではありません。人生の多くの時間を会社に拘束される

〈サラリーマン〉として、わずかな自由時間を創作活動にあてています。そのためには、〈手帳〉を用いて、時間を管理し、アイディアをメモしていくことが必要でした。私のように〈小説〉でなくても、「もっと趣味の時間を増やしたい」と思っている人には、お役に立てる内容ではないでしょうか。

パート2は「**プロに頼む方法**」として、素人がプロのミュージシャンや声優さんなどに仕事を依頼する方法を紹介します。〈小説〉のプロモーションとして、これも私が実際に行なったことです。ほとんどの人には無縁な話かもしれませんが、しかし、将来にわたり絶対に役立たない情報とも言えない。ぜひ一読していただけると幸いです。

当初はタイトルも「自称・小説家」とするつもりでした。しかし、プロの校閲さんに〈小説〉の原稿のチェックを依頼し、その経験をブログの記事に書いたところ、500以上の「はてなブックマーク」、3000以上のリツイートを頂戴しました。「いいね!」も800を超え、3日間で5万人がアクセスする人気記事になったのです。それが「はてなニュース」で取り上げられ、「作家」と書いていただいたので、「自称」とするのはかえっていやらしい。堂々と「小説家」を名乗ることにしました（その記事は46ページに収録しています）。

なお、パート3では、2014年に観賞した作品の中から、ジャンルごとにベストを選んでいきます。こちらも含わせてご覧ください。

2015年1月1日 米田政行（ぎゃふん工房）



▶「はてなニュース」をはじめ「ニコニコニュース」や「2ちゃんねる」でも話題になりました。

◀〈小説〉のオフィシャル・サイト。まずはここにアクセスしてみてください。
tensi-no-match.info



もくじ

*項目をクリック（タップ）するとページにジャンプします。

1 ~今日からあなたの役に立つ~ 小説家の仕事術 7

仕事と趣味を両立させる方法を探る	8
ワーク・ライフ・バランスで趣味を人生に組み込む	10
仕事の時間を最適化し趣味の時間を確保する	14
浮かんだアイデアを逃がさずメモする	20
実際に使っている手帳とその他のツールを大公開	26

2 ~いつかあなたの役に立つ~ プロに頼む方法 33

イラストレーターに表紙を描いてもらう	34
ミュージシャンに主題歌を作ってもら	38
声優さんに小説のセリフを言ってもら	42
校閲さんに原稿をチェックしてもら	46

3 ~あなたにおすすめしたい~ ぎゃふん作品賞 55

傑作フェイク・ドキュメンタリーと往年の黒澤作品を要チェック	56
なじみの歌姫の最新作を購入するもAAA『GOLD SYMPHONY』に衝撃	58
『まどか』『ジョジョ』『シドニアの騎士』2014 年は傑作アニメが豊作	59
ガールズ・ラブ小説と、古くて新しい問題を考える本	60

はじめに	4
ぎゃふん工房の電子書籍	32
おわりに——2015 年の抱負	61

1

～今日からあなたの役に立つ～ 小説家の仕事術

趣味で作品を書いている小説家は、
多忙な日々の中、手帳を使って
創作の時間をひねり出している。

そのノウハウには、
誰にでも役立つものが含まれているはずだ。





小説家の仕事術①

仕事と趣味を 両立させる方法を探る

人は時間という悪魔に人生を支配されている。

彼らにはんろう翻弄され、りようじゅく陵辱され、さくしゆ搾取されている。

ところが、敵にまわすと恐ろしい存在は、
えてして、味方につければ頼もしい仲間となる。

では、この悪魔を手なづける方法はあるか？

私は「ある」と、断言する。

そのための道具が〈手帳〉なのである。

そもそも〈サラリーマン〉とは何か

これまでも、なんらかの方法で人生をやりくりし、趣味の時間を確保している。そんな方は、きちんとしたノウハウをお持ちだと思うので、このパートはスルーしていただいてもかまいません。

会社を辞めたり、あるいは就職しなかったりして、自分の時間を確保し、夢を実現するために努力している人もいます。しかし、ここで対象とするのは、そういう人たちではありません。あくまで〈サラリーマン〉です。

では、ここで言う〈サラリーマン〉とはどんな存在でしょう。

ブラック企業で働き、ワーキング・プアであり、社畜——。

これはまさに私自身を言い表わす言葉だったりします。ここで重要なのが以下の2点です。

- とにかく自分の時間が持てない。
- 心も体も会社に捧げている。

普通の〈サラリーマン〉あるいは〈ビジネスパーソン〉と呼ばれる人は、私

ほどひどい状況でなくても、多かれ少なかれ、そんな状況に置かれているのではないのでしょうか。もちろん、私より過酷な境遇きょうぐうの人かもしれません。

いずれにしても、順当に考えると、とても趣味に費やす時間はないわけです。でも、やらなくてはならない。そんな私たちが人生に導入したいノウハウを研究・実践するのが、このパートの趣旨です。

趣味を充実させる手帳・メモ術の3人の先生

私が取り入れている方法、すなわちこれからご紹介していくノウハウは、じつはベストセラーになっている〈仕事術〉の〈いいとこどり〉です。私のオリジナルではありません。でも、だからこそ説得力があり、実践的なのです。

今回、参考にさせていただいた書籍の著者は下の御三方です。

- ①ワーク・ライフバランス社の社長・小室淑恵さん
- ②『「超」整理法』で知られる仕事術の第一人者・野口悠紀雄先生
- ③『100円ノート「超」メモ術』の著者・中公竹義先生

私の実践している方法は、この3人のご著書から〈おいしいところ〉を頂戴し、アレンジしたものなのです。これらの先生のノウハウと、“小説家”としてそれらの理論をどう“咀嚼”しているかをご紹介します。

小室淑恵



『ラクに勝ち続ける働き方』



『人生と仕事の段取り術』

野口悠紀雄



『「超」手帳法』



『クラウド「超」仕事法』

中公竹義



『100円ノート「超」メモ術』



小説家の仕事術①

ワーク・ライフ・バランス で趣味を人生に組み込む

まずは、手帳を使うことの意義を考えるため、〈ワーク・ライフ・バランス〉を提唱している小室淑恵^{さしえ}さんの理論を解説していきます。

〈ワーク〉の単位時間あたりのアウトプットを増やす

私たちサラリーマンは、大がかりな仕事や、ヘビーなプロジェクトを前にすると、「しばらく終電までがんばる日々が続くな」「何日か徹夜をするしかない」「休日出勤もしないとな」などと考えてしまいがちです。自分ではそう思わなくても、チームのリーダーや上司からそんなふうに言いわたされることもあるでしょう（法的な問題は別にして）。

小室理論は、まずその発想を否定します。
「そんなこと言ったって、こなすべき仕事の量が膨大^{ぼうだい}なのだから仕方がない」「だいたい会社が悪いんだ。適切に人員を配置していないから」。そう不満を漏らしたくなるでしょう。

しかし、「残業」や「休日出勤」は、自分のスキルアップによって、かなりのをいど回避することができます。

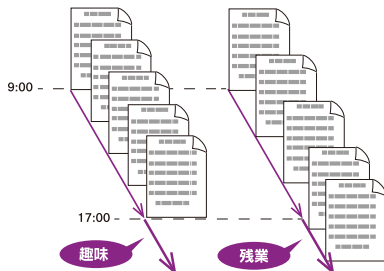
「ワーク・ライフ・バランス」と聞くと、「のほほんと仕事をして、定時に帰る」ことをイメージするかもしれませんが、しかし、少なくとも小室理論では違います。むしろ逆で、極端に言えば「どんな仕事も定時までには終わらせなければならぬ」「それができないようなスキルの低い人材は不要」というシビアな話なのです。

会社の立場に立って考えてみてください。残業代など割増の賃金は、その人の「スキルの低さ」にコストを払っているのと同じです（もっともサービス残業として、賃金が出ない場合も多々ありそうですが、それはまた別問題）。日本人の件数費は高いので、時間さえかければ誰でもできる仕事は、賃金の安い

外国人に外注するようになるわけです。そのことの是非はともかく、これから時代は確実にそうなっていくでしょう。

この理論を敷延^{ふえん}すれば、「仕事は何がなんでも定時に終わらせ、趣味の時間を確保する」ということになります（図1）。

図1 仕事は定時に終わらせ、趣味の時間を確保する



では、どうすればそれが可能か？ さまざまな方法があると思いますが、次にご紹介する野口悠紀雄先生の「仕事の時間を最適化」する方法（14ページ）で改めて考えたいと思います。

〈ライフ〉でインプットし 〈ワーク〉のアウトプットを増やす

とある企画を何度提出しても通らない。自宅で何気なく手に取った雑誌から着想を得て、それを盛り込んで再提出したら、見事採用された——小室さんの挙げている例です。

つまり、われわれが従事している仕事は、人々の〈私生活〉につながっており、自らの〈私生活〉にこそ仕事のヒントは眠っている。逆に、実験のもとづいていない商品・サービスは生き残れない、というわけです。

これはいわば仕事の〈質〉の話ですが、〈量〉の問題にも関わってきます。

私自身の卑近な例を挙げましょう。とある作業を行なう際、普通の人がExcelを使うところで私はFileMakerを用いています。能率がまったく違うからです。では、FileMakerの使い方をどうやってマスターしたのか？ 会社の先輩から教わった？ そうではありません。自宅で家計管理にFileMaker

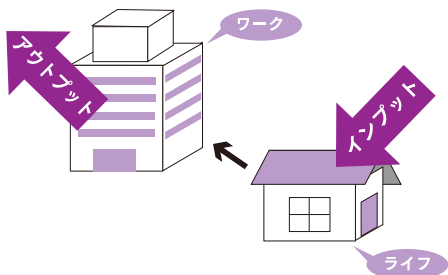
を使っていて、そこで覚えたノウハウを会社の仕事に応用しているのです。

このように、「ライフ（私生活）のインプット」は、「ワーク（仕事）の単位時間あたりのアウトプット」につながっていく。そう言えると思います。

さて、これらを趣味の時間を確保する観点から考えるとどうなるでしょう？

ライフ（私生活）のインプットによって、ワーク（仕事）のアウトプットの〈質〉と〈量〉が上がるのだから、ワークにかかる時間は短縮され、その分、趣味の時間が確保できるでしょう（図2）。

図2 〈ライフ〉のインプットが〈ワーク〉のアウトプットの量と質を高める



さらに、話を発展させれば、反対にワークにおけるインプットが、趣味のアウトプットに役立つのではないかとさえ思っています。

これも私の例を挙げましょう。私の書いた小説に「高級ホテルのスイートルームのような部屋」というのが出てきます。宿泊客としては一生縁のないところかもしれませんが、幸運にもそんな場所に仕事で訪れることができた。だから、その経験を小説に活かしたのです。これはやや特殊かもしれませんが——いや、誰にとっても人生は「特殊」なのだから、趣味に使える素材は、ワーク（仕事）の中にも眠っているはずなのです。

〈仕事〉〈家庭〉〈趣味〉の3本柱を持つ

「家庭^{かえり}を顧みず仕事^{まいしん}に邁進する」という働き方が^{しょうよう}称揚されたのは、それほど昔のことではないでしょう。社会の状況がそれを許していた（そのほうが合理的な）時代だったからで、これからはそんな考え方は通用しない、というのが

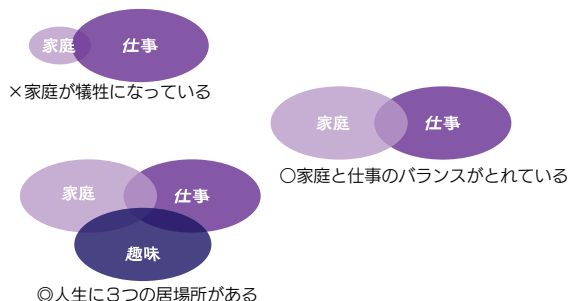
小室理論です。その理由は、これまで述べたとおりですが、そのほかに「そういう働き方はメンタルに悪影響を及ぼす」という点もあります。

仕事のことばかり考えていて、もううまくいかないことがあったら、一気にダメになってしまう。家庭を犠牲^{ぎせい}にして働いていれば、家族に愛想^{あいそう}をつかさね、自宅に居場所がなくなってしまうかもしれません。

会社以外に、自分の居場所、自分を評価してくれるところを作っておくと、仮に仕事がいまうまくいなくなっても、軸足をそこに移すことで人生を建て直せます。そうすれば、仕事のほうも持ち直していくかもしれないのです。

この「居場所」は、〈仕事〉〈家庭〉のほかに、〈趣味〉を加えた〈三本柱〉にしておくのがよい、とされています（図3）。

図3 〈仕事〉〈家庭〉〈趣味〉の三本柱を持つ



私生活で仕事のことは一切考えない。そんな暇があったら、とにかく手を動かす。小説の本文を書き進め、着想をメモする。その行為自体が、先に述べたように、仕事で取り組む商品やサービスにつながるかもしれないのです。

家庭を持っている人なら、〈仕事〉〈家庭〉〈趣味〉の盤石^{ばんじやく}な〈三本柱〉ができるでしょう。独身の人は、〈仕事〉〈趣味〉以外の居場所（たとえばボランティア活動など）を持っておくのがベストですが、〈仕事〉の比重が大きくなればよいので、〈仕事〉と〈趣味〉のバランスを保てばよいでしょう。〈趣味〉は〈仕事〉の量を増やし、質を高めるために必要である。そう発想を切り替えると、人生が拓^{ひら}ける気がしませんか？

つづきは正式版でお楽しみください。



© 2001 - 2015 GYAHUN Koubou

2015年1月1日 1.1 版 発行

2022年3月3日 デジタルリマスター版 発行

出版者 米田政行

発行所 Gyahun 工房
mail@gyahunkoubou.biz